

第35回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第35回全日本実業柔道個人選手権大会は8月27日～28日の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で開催された。

男子8階級（7体重別と22歳未満の部）502人、女子7階級119人の計621人がエントリーして連日4試合場で熱戦を展開した。



開会式であいさつする米澤三郎 大会副会長

初日の開会式では米澤三郎大会副会長の挨拶、および大会名誉顧問の白井文尼崎市長の歓迎の挨拶の後、試合が開始された。男子66kg級の須藤英雄4段（ダイコロ）が見事な内股で2年連続3度目の優勝を果たした他に、女子52kg級の岡崎綾子3段（創電社）と57kg級の岩藤理恵2段（三井住友海上）の二人がそれぞれ3連覇を飾った。男子60kg級の小川武志3段（了徳寺学園職員）、73kg級石川美久4段（総合警備保障）は3年ぶり2度目。81kg級吉永慎也4段（新日鐵）と22歳未満矢根陽介2段（日柔整請求サービス）、女子48kg級宝真由美2段（コマツ）はそれぞれ初優勝。

2日目は女子63kg級で上野順恵2段（三井住友海上）が3連覇を飾り、78kg超級の小松崎弘子3段（自衛隊体育学校）と男子100kg級の筒井宏樹4段（平成管財）がそれぞれ2年ぶり2度目に返り咲いた。90kg級の廣川充志3段（了徳寺学園職員）は前所属のセコム時代の第31回大会から4年ぶり2度目。100kg超級の松山毅4段（旭化成）と女子78kg級の長瀬めぐみ2段（了徳寺学園職員）、70kg級渡邊美奈2段（コマツ）以上3人は共に初制覇だった。



開会式で歓迎のあいさつをする白井尼崎市長



全国各地から出場した選手が集う開会式



選手宣誓する柴田選手（セコム）

男子100kg超級 ”巨漢松山、決勝戦を豪快な裏投で制し初優勝“

旭化成松山は、巨体を利した戦法で、苦しみながらも対戦相手を次々に降して勝ち進む。僚友の大鋸との準決勝戦は、両者反則負けでゴールデン・スコア方式の延長戦に移る珍しい展開となる。ここでも共に指導3を受けるが、残り1分12秒に場外際の小外掛で効果を奪い、初の決勝戦進出を果たす。

一方の新日本製鐵森田。初戦で昨年3位の旭化成河野を技ありで降して後は、一本勝を重ねて準決勝戦に進出。平成管財の新人里山との準決勝戦では、開始23秒、両者十分に組み合った瞬間に里山が仕掛けた内股を、森田が体を捻るように内股すかしで素早く反応して里山を一回転させ、決勝戦初進出を決めた。

決勝戦は、開始26秒に両者指導1の後、1分9秒、共に十分組み合った状態で森田が場外際から大内刈に刈り込めば、受ける松山、森田の背中を掴むと同時に抱き寄せ、真後ろに放り投げると、森田の巨体は場外へ大きく弧を描き畳に沈む。松山、裏投を豪快に決め、一本勝で初優勝を飾る。



優勝した松山選手
(旭化成)

松山の話
優勝は意識せず一戦一戦全力で戦って昨年のベスト8以上が目標だった。大学1年後輩の森田に勝ったことが嬉しい。優勝はしたけれど、内容はまだまだ。技の出が遅いなどの課題が残る。講道館杯でひとつでも上を目指して頑張りたい。

【成績】

優勝 松山 毅 (旭化成)
準優勝 森田祥一 (新日鐵・広畑)
第3位 大鋸 新 (旭化成)
第3位 里山裕晃 (平成管財)

▽準々決勝

○大鋸 支釣込腰 大野 (ダイコロ)
○松山 反則勝 大藤 (総合警備保障)
○森田 袈裟固 古賀 (京葉ガス)
○里山 小外刈 江上 (九州電力)

▽準決勝

○松山 優勢勝 大鋸
○森田 内股すかし 里山

▽決勝

○松山 裏投 森田

男子100kg級 ”筒井、大外刈一閃、2年ぶり2度目の優勝を飾る“

2年ぶり本大会出場の平成管財筒井は、日体大柔友会小嶋、旭化成繁昌等の強豪を接戦の末退け、勝ち上がる。総合警備保障大川との準決勝戦は、左右の組み手争いになるも筒井が終始リード。残り1分に技の出ない大川へ指導1が与えられ、そのまま時間。筒井2度目の決勝戦進出を果たす。

一方、総合警備保障近野は尻上がりに調子上げて勝ち進み、準決勝戦では昨年年優勝の大川から開始27秒払腰で有効を奪う。その後、大川の猛反撃を効果2本に止め決勝戦初進出。

決勝戦は、ケンカ組み手争いを制した長身の筒井が、開始36秒小外刈で効果。その後も有利に試合を進めるが、近野も試合中盤に組み際の裏で効果を奪い返す。残り58秒、筒井の攻勢に疲れの見え始めた近野が後ろに退くところ、筒井が大外刈に右足を飛ばせば、近野の体が宙に浮かんで、そのまま畳に落下。筒井2年ぶり2度目の優勝。



優勝した筒井選手
(平成管財)

筒井の話
精一杯の試合だった。今年から100kg級に決め、新スタートのつもりで戦った。講道館杯では、一戦一戦大切に戦いもう一度強化選手入りを目指したい。

【成績】

優勝 筒井宏樹 (平成管財)
準優勝 近野貞治 (総合警備保障)
第3位 大川康隆 (総合警備保障)
第3位 大川良二 (ダイコロ)

▽準々決勝

○大川 優勢勝 中野 (了徳寺学園)
○筒井 優勢勝 繁昌 (旭化成)
○近野 内股 川波 (九州電力)
○大川 合わせ技 坂本 (了徳寺学園)

▽準決勝

○筒井 優勢勝 大川
○近野 優勢勝 大川

▽決勝

○筒井 大外刈 近野

男子90kg級 ”廣川、立って良し、寝て良しの柔道で4年ぶり2度目の優勝“

セコム落合は、多彩な技を繰り出しオール一本勝で破竹の進撃。僚友筒井との準決勝戦は、試合開始から技の応酬が続き見応えのある攻防となった。勝負は技あり、続いて有効とリードを許していた落合が、残り42秒会心の背負投一本で逆転、決勝戦初進出を決める。

かたや、入賞常連の了徳寺学園廣川は、昨年準優勝のセコム齋藤を技あり優勢勝で降しての準決勝戦進出。準決勝戦は京葉ガス中濱との対戦。試合開始22秒、中濱の一時の隙を衝き、廣川が小外掛で効果を先取。その後は組み手争いから両者、指導2を受け、そのまま時間。廣川序盤のリードを守って4年ぶりの決勝戦進出を果たす。

決勝戦は、共に左組みの両者、激しい技の応酬。中盤に至る2分21秒、廣川が場外際大内刈技ありでリードを奪う。続いて、技を仕掛けて崩れた落合を寝技に持ち込み、3分12秒腕挫十字固に極めれば、落合は無念「参った」の合図。廣川4年ぶり2度目の嬉しい優勝。



優勝した廣川選手
(了徳寺学園)

廣川の話
決勝の落合は中大の後輩で、普段から兄弟のような親しい仲。とてもやりにくかったが、全力で戦った。講道館杯を目標にスタミナを強化しまだまだ続ける。

【成績】

- 優勝 廣川充志 (了徳寺学園)
- 準優勝 落合雄太 (セコム)
- 第3位 筒井友和 (セコム)
- 第3位 中濱真吾 (京葉ガス)

▽準々決勝

- 落合 小内刈 松岡 (了徳寺学園)
- 筒井 優勢勝 小川 (了徳寺学園)
- 中濱 優勢勝 中田 (セコム)
- 廣川 優勢勝 齋藤 (セコム)

▽準決勝

- 落合 背負投 筒井
- 廣川 優勢勝 中濱

▽決勝

- 廣川 腕挫十字固 落合

男子81kg級 ”激戦を勝抜いた吉永、新人同士の決戦を制し初出場初優勝を飾る“

最多エントリー階級、激戦の81kg級。

松前柔道クラブ谷口は、初戦、第二戦こそ苦戦したが、尻上がりに調子を上げ準決勝戦に駒を進める。準決勝戦でも開始40秒に京葉ガス河原の動きに機敏に反応し、小外掛から体を捨てると、河原畳に背中を打ち据えられ一本。谷口、堂々の決勝戦進出。対する新日本製鐵吉永は、準々決勝戦セコム仲田戦の旗判定で辛勝した試合以外は全て一本勝で勝ち上がる。旭化成石橋との準決勝戦も開始26秒、相手がバランスを崩した所を巧みに寝技に引き込み、横四方固で一本勝。決勝戦に駒を進めた。

新人同士の決勝戦は、両者めまぐるしく動き回る展開。攻防が続く3分46秒、吉永が谷口の一瞬の隙を衝いて、左手で相手の右足首を掴み、そのまま前方に押し込めば谷口は後方へ仰向けに倒れ、吉永は勢い余って一回転。吉永、技ありを奪い、その後の谷口の反撃を難なくかわしてブザー。吉永初出場初優勝の栄誉に輝く。



優勝した吉永選手
(新日鐵・広畑)

吉永の話
優勝を意識して一つ一つ集中して戦った。社会人1年目で良い結果を残せてホッとした。昨年の講道館杯は悔しい思いをしたので、目標を高くして今年は優勝を狙う。

【成績】

- 優勝 吉永慎也 (新日鐵・広畑)
- 準優勝 谷口 徹 (松前柔道クラブ)
- 第3位 河原正太 (京葉ガス)
- 第3位 石橋剛士 (旭化成)

▽準々決勝

- 谷口 優勢勝 竹田 (セコム)
- 河原 優勢勝 鈴木 (了徳寺学園)
- 石橋 内股 百瀬 (平成管財)
- 吉永 優勢勝 仲田 (セコム)

▽準決勝

- 谷口 小外刈 河原
- 吉永 横四方固 石橋

▽決勝

- 吉永 優勢勝 谷口

男子73kg級 ”石川、稲澤との死闘を制し、3年ぶり2度目の優勝“

本大会初出場のダイコロ稲澤は、初戦から好調に勝ち進む。準々決勝戦では昨年の覇者了徳寺学園荒平を優勢勝で破る。昨年第3位の国士館柔道クラブ法領田との準決勝戦では、両者決め技がないまま消極姿勢の法領田に、2分7秒指導1が与えられる。これが決勝ポイントになり稲澤、決勝戦初進出。

かたや、3年ぶりの優勝を目指す総合警備保障石川も、準決勝戦まで一本勝が4試合と、消耗少なく勝ち上がる。セコム松原との準決勝戦は、石川が松原に指導1のリードを許したまま試合が経過したが、残り55秒に石川が相手を背中に乗せて、自分のあいている片手で相手の足を跳ね上げながら背負いに担げば、松原もんどり打って背中から落ち、逆転の一本勝。石川決勝戦に進出。

決勝戦は、ケンカ組み手の両者は序盤技が出ず41秒両者に指導。引き付けの強い稲澤は石川の動きを制して、効果を連取。挽回を図る石川が3分52秒に大外刈で攻めれば、これが払巻込気味に決まって有効となる。その後の稲澤の猛反撃も効果に止まりブザー、稲澤万事休す。石川3年ぶり2度目のうれしい優勝が決まる。



優勝した石川選手
(総合警備保障)

石川の話

この大会は3年ぶりの試合なので優勝を狙っていた。10ヶ月ぶりの試合で試合勘が十分でなく減量にも苦労した。決勝戦は先にポイントを取られて苦戦し、少し甘かったと反省。これから講道館杯に向けしっかりと調整し、優勝を目指す。

【成績】

- 優勝 石川美久 (総合警備保障)
- 準優勝 稲澤真人 (ダイコロ)
- 第3位 法領田康幸 (国士館柔道クラブ)
- 第3位 松原 豊 (セコム)

▽準々決勝

- 稲澤 優勢勝 荒平 (了徳寺学園)
- 法領田 優勢勝 磯 (東レ滋賀)
- 石川 優勢勝 山本 (東海学院柔道クラブ)
- 松原 優勢勝 明先 (まると接骨院)

▽準決勝

- 稲澤 優勢勝 法領田
- 石川 背負投 松原

▽決勝

- 石川 優勢勝 稲澤

男子66kg級 ”須藤、2年連続3度目の優勝を一本勝で飾る“

昨年の覇者ダイコロ須藤は、今年も危なげなく勝ち進む。了徳寺学園西野との準決勝戦は、激しい組み手争いから、3分17秒に須藤が奥衿を掴むや否や払腰で技ありを奪い、そのままタイムアップ。須藤3年連続の決勝戦進出。

対する旭化成寺居は、スタミナ多消費の柔道で勝ち上がる。新日本製鐵古賀との準決勝戦では、序盤朽木倒し効果でリードを奪われるも、反撃に転じた中盤、古賀から指導2を得て、逆転勝で決勝戦初進出。

上位入賞常連の須藤に新鋭寺居が挑む図式の決勝戦は、共に組み手争いに終始、技の出ない両者に1分10秒に指導1が与えられる。しかし、中盤の2分25秒、寺居が引き手を欲しがった刹那を捉え須藤の内股が炸裂。寺居は大きく浮き上がると、次の瞬間仰向けになって畳に沈む。須藤、決勝戦を鮮やかな一本勝で制し、2年連続3度目の栄冠を手中に。



優勝した須藤選手
(ダイコロ)

須藤の話

体調が万全でなかったので、連覇は意識せず一戦一戦自分の力を出し切ろうと思っていた。決勝で寺居に講道館杯(一昨年)のリベンジを果たせて嬉しい。大会前は山梨学院大で練習をしている。今日も大学の先生が来られてとても励みになった。講道館杯でも上位を目指す。

【成績】

- 優勝 須藤英雄 (ダイコロ)
- 準優勝 寺居高志 (旭化成)
- 第3位 西野公章 (了徳寺学園)
- 第3位 古賀博輝 (新日鐵・広畑)

▽準々決勝

- 須藤 払腰 望月 (セコム)
- 西野 送襟絞 鳥入 (近畿通関)
- 古賀 逆十字絞 漆畑 (東芝)
- 寺居 優勢勝 中野 (セコム)

▽準決勝

- 須藤 優勢勝 西野
- 寺居 優勢勝 古賀

▽決勝

- 須藤 内股 寺居

男子60kg級 ”小川、僚友佐々木を頂上対決で制し3年ぶり2度目の優勝“

昨年の決勝戦では、攻め込みながら試合運びの巧拙の差で負けた感のあった了徳寺学園佐々木、今年は苦しみながら勝ち進み準決勝戦へ駒を進める。準決勝戦はセコム松本との対戦。佐々木は序盤から中盤にかけて攻勢を進め、背負投有効、小内刈効果で松本をリードする。後半疲れから松本の反撃に遭遇するが、これを凌いで2年連続の決勝戦進出を決める。

対する僚友の了徳寺学園小川は、初戦苦戦するが、その後は順調に勝ち上がる。自衛隊体育学校今田との準決勝戦では、序盤は技の応酬が続くも、1分56秒に今田から効果を奪った後は小川のペースとなる。3分25秒に今田から指導1を奪った後、なおも攻め続け3年ぶりの決勝戦進出を果たす。

同じ所属先同士の決勝戦は、佐々木は疲れからか技が出ず、43秒指導1を受ける。その後動きの止まった両者にそれぞれ指導2、指導1。終了間際の残り9秒には小川、駄目押しとなる両手刈で効果。小川3年ぶりのV2。佐々木は昨年に続き、またも苦杯を喫す。



優勝した小川選手
(了徳寺学園)

小川の話
決勝の佐々木は同じ所属の一つ下で、週の半分は一緒に練習をする。お互いの手の内はわかっていたが、とにかく全力で戦った。自分だけの勝利ではなく、多くの方に支えられている。講道館杯でも声援・期待に応えたい。

【成績】

優勝 小川武志 (了徳寺学園)
準優勝 佐々木伸次朗 (了徳寺学園)
第3位 松本秀彦 (セコム)
第3位 今田一成 (自衛隊体育学校)

▽準々決勝

○佐々木 優勢勝 岩根 (自衛隊体育学校)
○松本 優勢勝 明石 (総合警備保障)
○小川 合わせ技 岡本 (かなや接骨院)
○今田 優勢勝 村山 (甲士講道道場)

▽準決勝

○佐々木 優勢勝 松本
○小川 優勢勝 今田

▽決勝

○小川 優勢勝 佐々木

男子22歳未満 ”矢根、すくい投を連発しオール一本勝でV“

高宮接骨院孝山は、体軀を生かした柔道で勝ち上がる。準決勝戦の三菱重工名古屋池上との対戦では、前半リード許すものの徐々に挽回し、共に指導2、有効1とタイに並ぶ。残り46秒、動きの止まった池上が焦って背負投を仕掛けるが、審判は偽装的攻撃とみなして指導3を与え勝敗が決す。孝山決勝戦に。

一方、豪快な一本勝で準決勝戦に進んだ矢根は、開始32秒日本貨物鉄道高橋の技を仕掛けようとするその右脚を抱え込み、豪快なすくい投で一本を奪い決勝戦進出。決勝戦。奥衿を掴み相手を支配する矢根の前に孝山は技出ず指導1。その後も矢根は、反撃に移る孝山の動きに反応して、小外掛で有効を奪う。消極的姿勢で指導2まで進んだ孝山が、挽回を期して強引に奥衿を取ろうとする刹那、矢根は得意のすくい投に抱え上げ、そのまま畳にダイブすれば、又もこれが豪快に決まり、矢根に凱歌が上がる。



優勝した矢根選手
(日柔整請求サービス)

矢根の話
この大会は初出場なのですごく緊張したし、地元なので今日はどうしても優勝したかった。とにかくガンガン攻めて先に技を掛ける事だけを考えて戦った。優勝できてとても嬉しい。

【成績】

優勝 矢根陽介 (日柔整請求サービス)
準優勝 孝山和秀 (高宮接骨院)
第3位 池上勇氣 (三菱重工・名古屋)
第3位 高橋祐貴 (日本貨物鉄道)

▽準々決勝

○池上 横四方固 及川 (了徳寺学園)
○孝山 反則勝 辻本 (東レ滋賀)
○矢根 すくい投 平野 (総合警備保障)
○高橋 内股 高田 (十全会・十全病院)

▽準決勝

○孝山 優勢勝 池上
○矢根 すくい投 高橋

▽決勝

○矢根 すくい投 孝山

女子78kg超級 ”小松崎、熱戦を制して2年ぶり2度目の栄冠“

昨年準優勝の自衛隊体育学校小松崎は、初戦一本勝の後の準決勝戦、引越専館ヤマト山崎との対戦。両者指導1で迎えた終盤3分43秒に体落効果で勝敗を決し、3年連続の決勝戦進出。

かたや、ヤックスケアサービスの新人清水は、危なげなく準決勝戦進出し、日本製薬長谷川との対戦も開始44秒、小外掛から体を捨てての豪快な一本勝で決勝戦へ。

小松崎対清水の対決となった決勝戦は、共に効果1、指導3で引分。ゴールデン・スコアーによる延長戦も両者指導3まで進む。その後やや攻勢に出る小松崎に対し、清水は動きが止まった状態となり、残り48秒遂に清水のみに指導が与えられ、清水の反則負けが確定。小松崎2年ぶり2度目の優勝。



優勝した小松崎選手
(自衛隊体育学校)

小松崎の話

決勝の清水は去年の講道館杯で勝っているが、今日は見すぎて技の出が遅すぎた。今年の講道館杯で勝って福岡国際に出場したい。もっと積極的に攻めていきたい。

【成績】

- 優勝 小松崎弘子 (自衛隊体育学校)
- 準優勝 清水伊穂理 (ヤックスケアサービス)
- 第3位 山崎飛鳥 (引越専館ヤマト)
- 第3位 長谷川真美子 (日本製薬)

▽一回戦

- 小松崎 上四方固 甲斐 (K-Reine)
- 山崎 上四方固 中井 (日本エースポト)
- ◎清水 優勢勝 中野 (セコム)
- 長谷川 払腰 田島 (東洋観光)

▽準決勝

- ◎小松崎 優勢勝 山崎
- 清水 小外刈 長谷川

▽決勝

- ◎小松崎 優勢勝 清水

女子78kg級 ”長瀬、オール一本勝で初出場初V“

了徳寺学園の新人長瀬は、豪快な内股、大外刈の大技が冴えて快進撃。東洋観光松下との準決勝戦も、3分36秒大外刈有効に続き、3分55秒大外刈一本で快勝。

一方、ダイコロ近藤は、初戦固技で一本勝の後、三井住友海上岡田との準決勝戦。リードされた残り2秒に逆転の大外刈有効を奪い、2年連続決勝戦進出。

共に長身、よく似たタイプ二人による決勝戦は、開始早々から長瀬のペース。16秒大外刈で有効を奪った後、1分10秒、今度は近藤を引き回しながら内股で跳ね上げれば、近藤の体は裏返って畳に沈む。長瀬、目の覚めるような一本で初出場初優勝の栄冠に輝く。



優勝した長瀬選手
(了徳寺学園)

長瀬の話

5月の団体対抗戦は絶不調で柔道をやめようと思った。個人戦は負けても誰にも迷惑かけないと自分に言い聞かせ、今日は思いつきやれた。社会人初優勝は嬉しい。講道館杯、福岡国際でも優勝したい。

【成績】

- 優勝 長瀬めぐみ (了徳寺学園)
- 準優勝 近藤悦子 (ダイコロ)
- 第3位 松下加奈子 (東洋観光)
- 第3位 岡田紘味 (三井住友海上火災保険)

▽準々決勝

- 松下 不戦勝 平岡 (平成国際大学柔道クラブ)
- 長瀬 内股 五戸 (山梨学院クラブ)
- ◎岡田 優勢勝 赤嶺 (ミキハウス)
- 近藤 袈裟固 服部 (自衛隊体育学校)

▽準決勝

- 長瀬 大外刈 松下
- ◎近藤 優勢勝 岡田

▽決勝

- 長瀬 内股 近藤

女子70kg級 ”新鋭渡邊、ベテラン貝山を寝技で制し、嬉しい初優勝“

昨年王者三井住友海上貝山は本大会不調。初戦は一本勝を取めたものの、その後は苦しい試合展開を余儀なくされた。特に、コマツ岡との準決勝戦では、延長戦でも引分となり、2対1の際に旗判定でようやく自身7度目の決勝戦進出。

対するコマツ渡邊は、好調に勝ち進む。ツクバ計画根崎との準決勝戦は、試合開始直後の効果みでの勝利で決勝戦進出となったが、それまでの2試合は一本勝で圧勝。新人対ベテランの対戦となった決勝戦は、渡邊ペースで試合が進み、技あり、有効と貝山を終始リード。2分54秒には大外刈で2本目の有効を奪い、そのまま崩壊袈固で押さえ込んで合せ技一本。渡邊初優勝を一本勝で飾る。スタミナを使い果たしたベテラン貝山は19歳新鋭の前に一敗地に塗れる。



優勝した渡邊選手 (コマツ)

渡邊の話
組み手や試合運びなど、相手のペースに合わせてしまったことや、気持ちの面での課題が残る。今後の試合も一つ一つクリアして、上野さんに勝って自分が日本代表になりたい。まだまだ、これからです。

【成績】

- 優勝 渡邊美奈 (コマツ)
- 準優勝 貝山仁美 (三井住友海上火災保険)
- 第3位 岡 明日香 (コマツ)
- 第3位 根崎裕子 (ツクバ計画)

▽準々決勝

- 貝山 優勢勝 植木 (セコム)
- 岡 優勢勝 七條 (了徳寺学園)
- 根崎 崩壊袈固 山下 (了徳寺学園)
- 渡邊 一本背負投 本田 (皇学院大学)

▽準決勝

- 貝山 優勢勝 岡
- 渡邊 優勢勝 根崎

▽決勝

- 渡邊 崩壊袈固 貝山

女子63kg級 ”上野順恵、切れ味鋭い大外刈一本で三連覇の快挙成る“

三井住友海上上野順恵は、2回戦で昨年同様コマツ谷本育実と対戦し、今年も優勢勝で退ける。続いて、新天地で心機一転を期すワイエスフード手島 (旧姓前田) との準決勝戦。両者譲らぬ熱戦も優勢勝で手島を降し、上野三年連続の決勝戦へ。

一方、セコム吉澤は寝技が冴え、初戦、第二戦とも寝技で一本勝。準決勝戦は、進境著しいダイコロ野村と対戦。両者互角の試合展開も3分12秒、吉澤の小外掛が技ありとなる。その後は野村の反撃をかわして2年連続決勝戦進出。

2年連続の対戦となった両者の決勝戦は、2分38秒動きのない上野に指導1が与えられるも、ほどなく組み手をしっかり握った上野が、追い足鋭く左大外刈で刈り込めば、吉澤もんどり打って背中から畳に落ちる。見事な一本。上野堂々、三連覇の快挙成る。



優勝した上野選手 (三井住友海上火災保険)

上野の話
絶対に負けられない大会だけに3連覇してホッとした。今日はとにかく一戦一戦を全力で戦うことに集中し、出来るだけ体落し以外の技で攻めるようにした。力不足で世界選手権代表になれなかったが、次ぎは自分が行って金を取りたい。

【成績】

- 優勝 上野順恵 (三井住友海上火災保険)
- 準優勝 吉澤穂波 (セコム)
- 第3位 手島桂子 (ワイエスフード)
- 第3位 野村康代 (ダイコロ)

▽準々決勝

- 上野 優勢勝 谷本 (コマツ)
- 手島 優勢勝 早田 (総合警備保障)
- 野村 後袈袈固 東野 (日水製菓)
- 吉澤 縦四方固 萩原 (十全会・回生病院)

▽準決勝

- 上野 優勢勝 手島
- 吉澤 優勢勝 野村

▽決勝

- 上野 大外刈 吉澤

女子57kg級 ”岩藤、寝技の冴えを見せオール一本勝で三連覇“

二連覇中の三井住友海上岩藤は、寝技で勝ち進む。コマツの新人岩田との準決勝戦は、ゴールデン・スコアーによる延長戦にもつれ込むも、開始18秒岩藤のタイミング良い小外掛がもの見事に決まり、一本勝で今年も決勝戦進出。

対する国土館柔道クラブの新人育山は、2試合連続延長戦での旗判定で準決勝戦へ。佑啓会ふる里学舎の坂東との準決勝は、育山が開始10秒に奪った背負投有効を守り切って決勝戦に進出。

共に右組み手の両者の決勝戦は、岩藤が開始18秒、巴投から電光石火の腕挫十字固に育山堪らず「参った」。岩藤オール一本勝で三連覇の偉業成る。



優勝した岩藤選手
(三井住友海上火災保険)

岩藤の話
全日本の合宿が終わった早々できつかったけど、やっぱり1位はいいな。選抜の後、膝を痛めて練習が不十分だったので、体重が増えないように注意していた。怪我をしないようにして講道館杯も頑張る。

【成績】

- 優勝 岩藤理恵 (三井住友海上火災保険)
- 準優勝 育山梨沙 (国土館柔道クラブ)
- 第3位 岩田千絵 (コマツ)
- 第3位 坂東亜沙美 (佑啓会ふる里学舎)

▽準々決勝

- 岩藤 横四方固 石川 (マックスアサヒ)
- 岩田 優勢勝 町田 (山梨学院クラブ)
- 育山 優勢勝 峯田 (セコム)
- 坂東 優勢勝 桂 (セコム)

▽準決勝

- 岩藤 小外掛 岩田
- 育山 優勢勝 坂東

▽決勝

- 岩藤 腕挫十字固 育山

女子52kg級 ”岡崎、今年も連続延長戦を勝抜き、三連覇の偉業達成“

昨年の覇者創電社岡崎は57kg級、52kg級の二階級で二連覇を達成。今年はこの階級三連覇に挑む。初戦一本勝の後のセコム吉村との準決勝戦では両者決め手なく引分。ゴールデン・スコアーによる延長戦で、開始24秒に巻込み気味の払腰で技ありを奪い、決勝戦進出。

一方、OJC鳴谷対コマツ宝寿栄との準決勝戦は、宝が開始早々の背負投で効果を奪い、その後3分1秒に一本背負で一本勝。宝、2年連続3度目の決勝戦進出。

昨年の再現となった決勝戦は、両者左組み。開始30秒両者に指導1。その後、岡崎が組み勝ち大外刈、内股で攻めるも、決め手を欠き引分ける。昨年同様に延長戦となるが、延長戦では岡崎が次第に攻勢を強め、技の出なくなった宝に1分36秒指導1が与えられ、試合終了。岡崎、前人未到の大記録達成。姉妹チャンピオンを目指した宝は、昨年に続き涙を飲む。



優勝した岡崎選手
(創電社)

岡崎の話
今年の優勝は本当に嬉しい。この1年は日体大の道場へ通い稽古を積んできた。学生時代のようにバリバリはやれないがメリハリを付けた練習が続いている。世界への夢は持ち続ける。会社の理解に感謝したい。

【成績】

- 優勝 岡崎綾子 (創電社)
- 準優勝 宝 寿栄 (コマツ)
- 第3位 吉村依子 (セコム)
- 第3位 鳴谷彩子 (OJC)

▽準々決勝

- 岡崎 体落し 浜崎 (ワイエフロード)
- 吉村 内股 山崎 (明道館)
- 鳴谷 優勢勝 川口 (マックスアサヒ)
- 宝 優勢勝 三浦 (日水製菓)

▽準決勝

- 岡崎 優勢勝 吉村
- 宝 一本背負投 鳴谷

▽決勝

- 岡崎 優勢勝 宝

女子48kg級 ”新人 宝真由美、初出場V“

本年のカイロ世界選手権大会代表の北田を昨年の決勝戦で苦しめた近大クラブ大井は、初戦の不戦勝に続く準決勝戦で、日本エースサポート上原を背負投と崩上四方固の合せ技で難なく降し、2年連続決勝戦進出。

一方、コマツの新人宝真由美は、初戦快勝の後の準決勝戦では共にポイントなく引分。ゴールデン・スコアによる延長戦でもポイントなく旗判定になるが、白2本、赤1本の際どい判定で決勝戦進出。

決勝戦は、序盤大井が左右の背負投で先攻。1分過ぎから攻撃態勢になった宝は、2分48秒、大井の背負投をつぶして有効を奪う。続く3分39秒には、大井の両足首を両手で刈って有効、リードを広げる。残り14秒、反撃する大井が大外刈に入る瞬間、バランスの崩れを衝いた小内刈で3つ目の有効。そのままブザーとなり、優勝決定。宝が初出場を優勝で飾る。



優勝した宝選手
(コマツ)

宝の話
準決勝が厳しい試合で、決勝戦は疲れが抜けなかった。とにかく、どんどん先に攻めて最後まで集中して戦おうと思った。会社の応援がとても励みになった。姉と揃って優勝したかった。講道館杯、福岡国際優勝が今年の目標。

【成績】

優勝 宝 真由美 (コマツ)

準優勝 大井麻里子 (近大クラブ)

第3位 上原郁美 (日本エースサポート)

第3位 山岸絵美 (三井住友海上火災保険)

▽準々決勝

○大井 不戦勝 渡辺 (自衛隊体育会)

○上原 背負投 宮嶋 (トヨタ自動車)

○山岸 背負投 枝村 (十全会・回生病院)

○宝 足払 垣田 (竜JUDO CLUB)

▽準決勝

●宝 優勢勝 山岸

○大井 崩上四方固 上原

▽決勝

●宝 優勢勝 大井



78kg超級 小松崎 優勢勝 清水



90kg級 廣川 逆十字 落合



78kg級 長瀬 内股 近藤

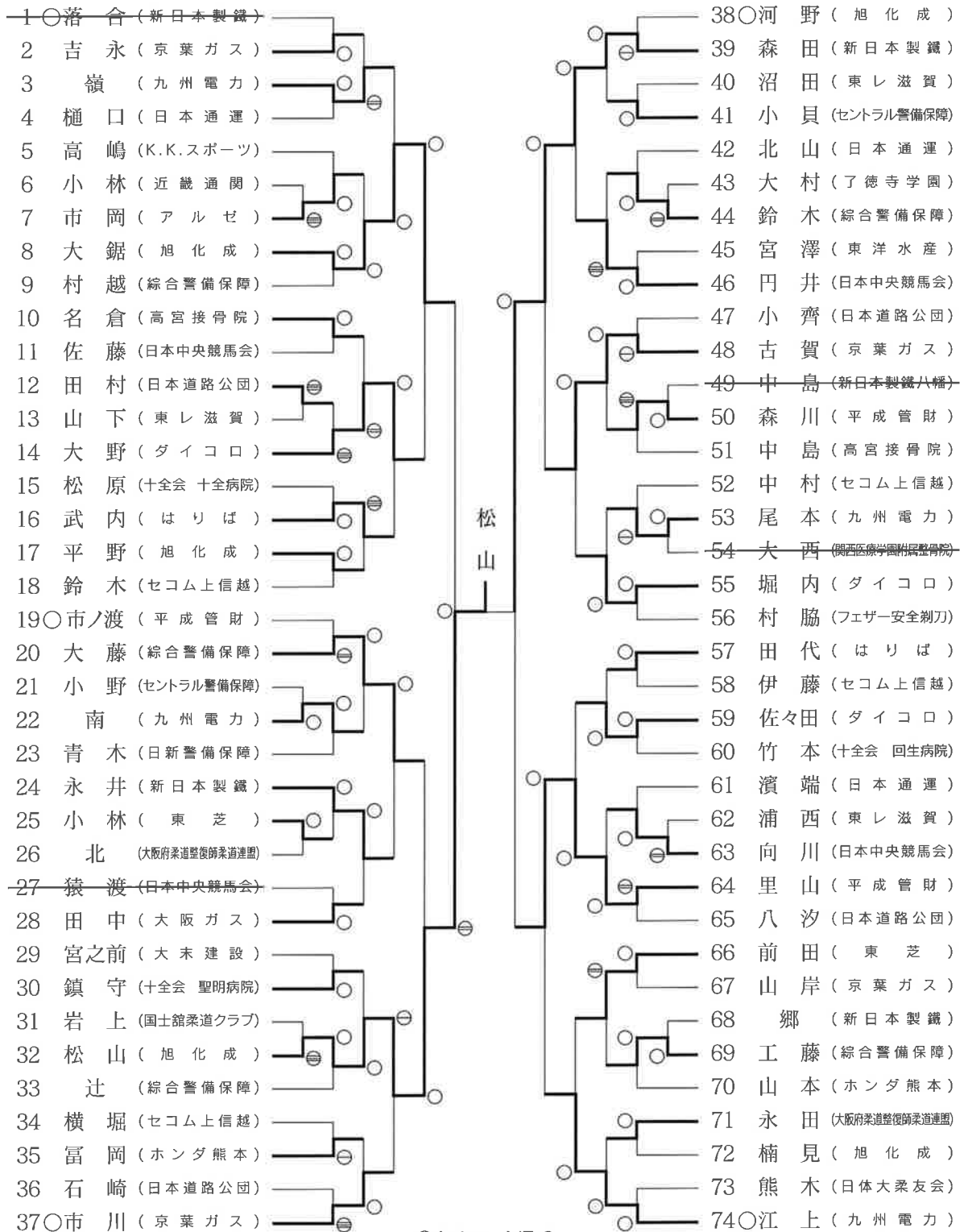


100kg級 筒井 大外刈 近野

熱戦風景 1

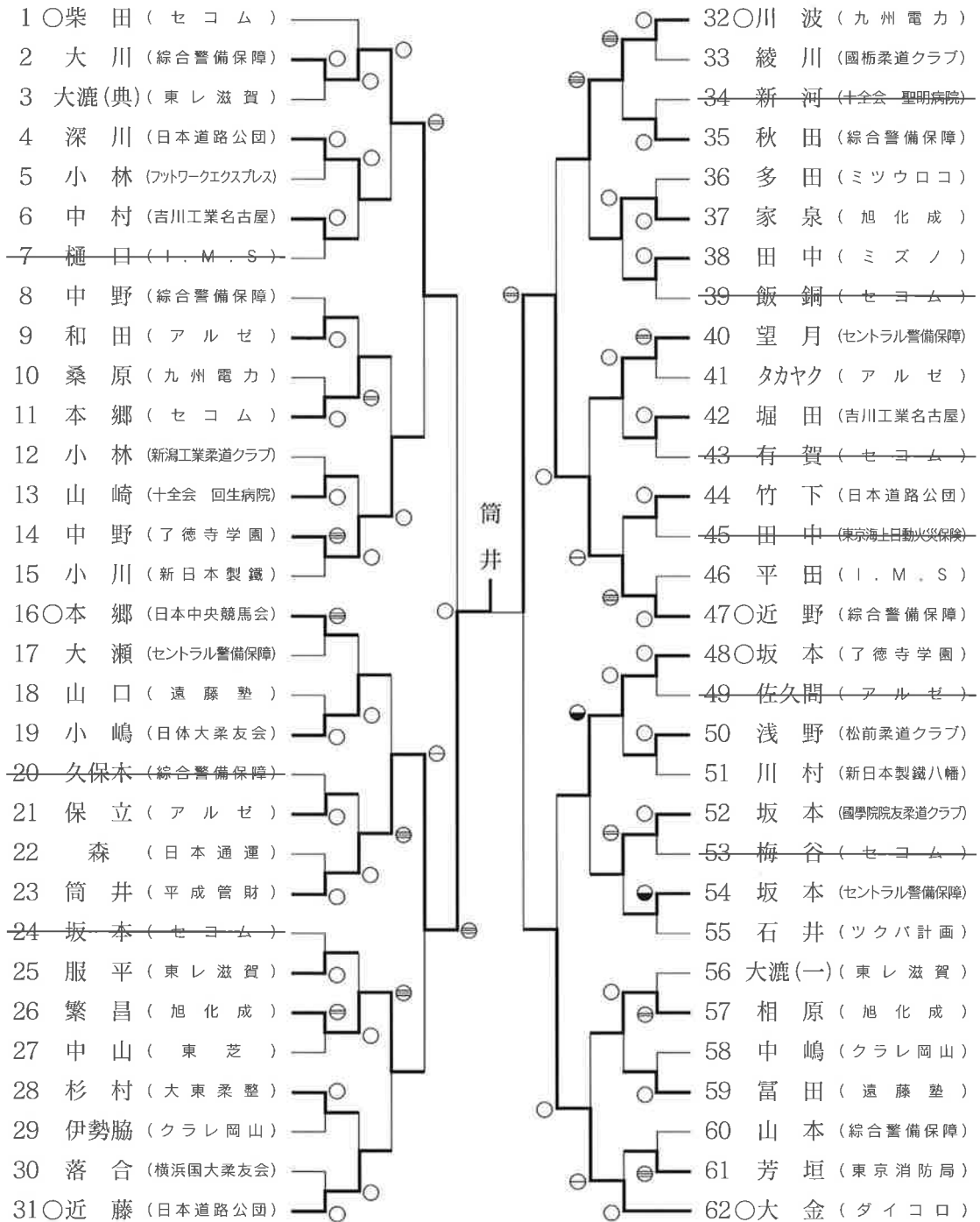
成績表

男子100kg超級(74名)



成績表

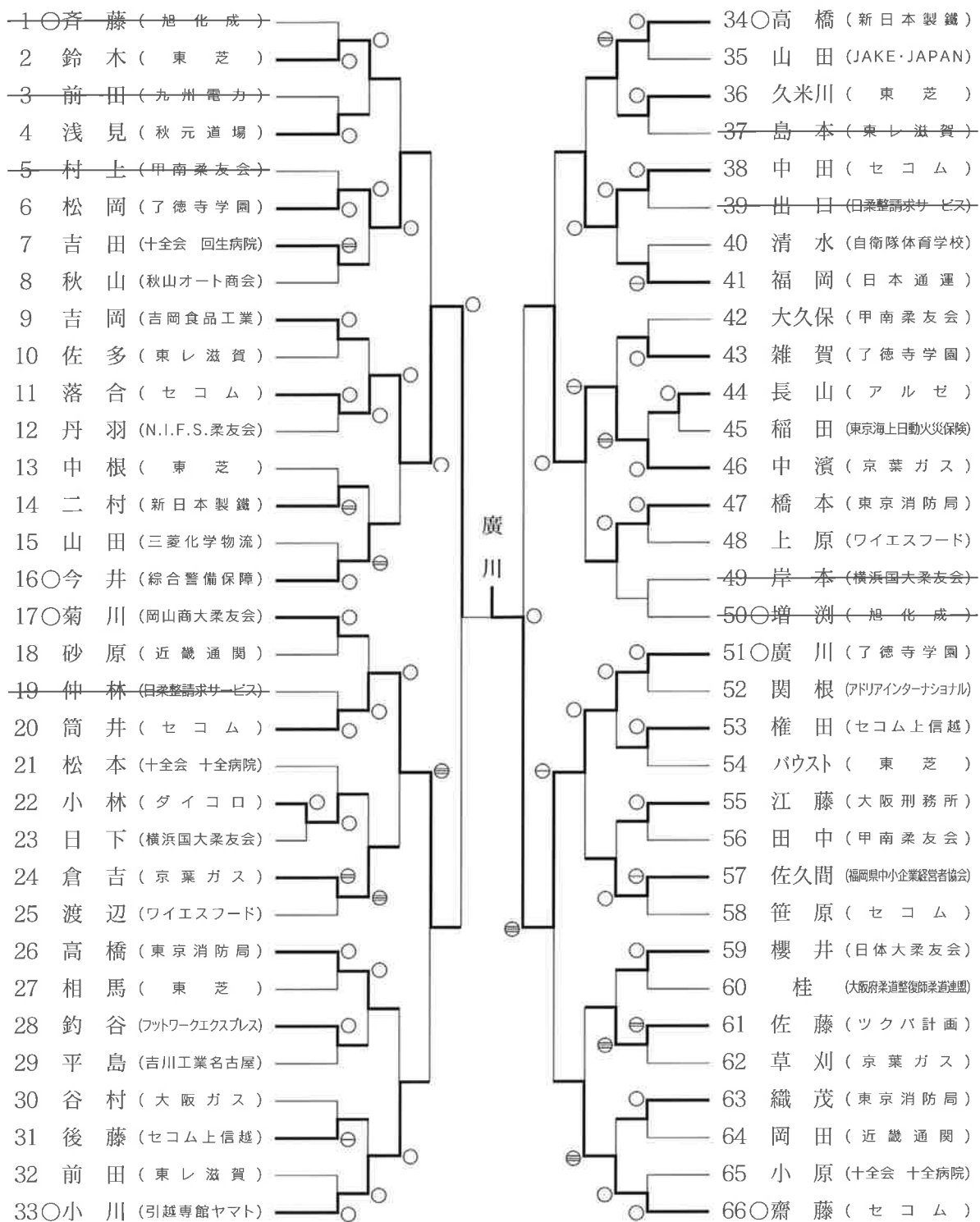
男子100kg級(62名)



○印はシード選手

成績表

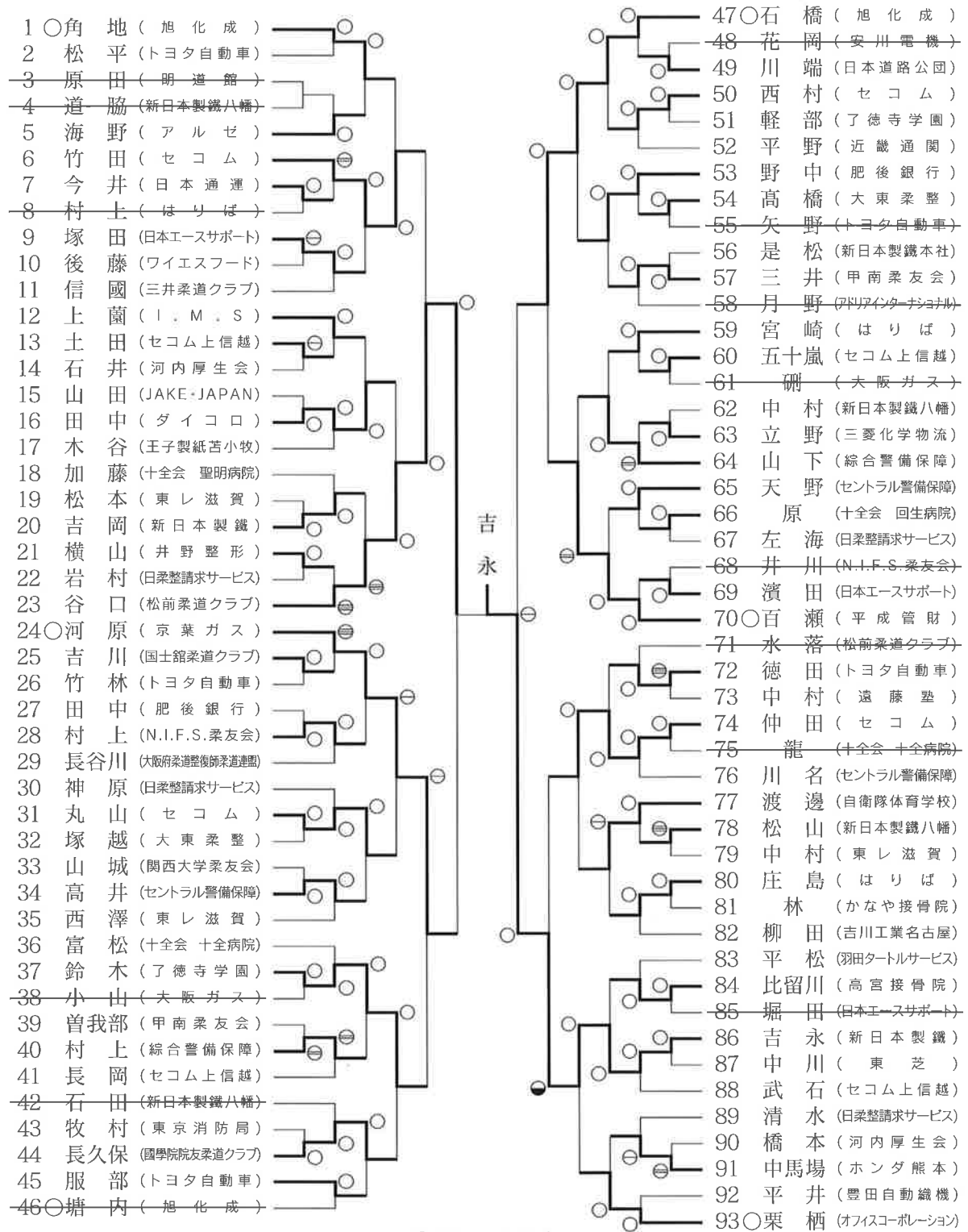
男子90kg級(66名)



○印はシード選手

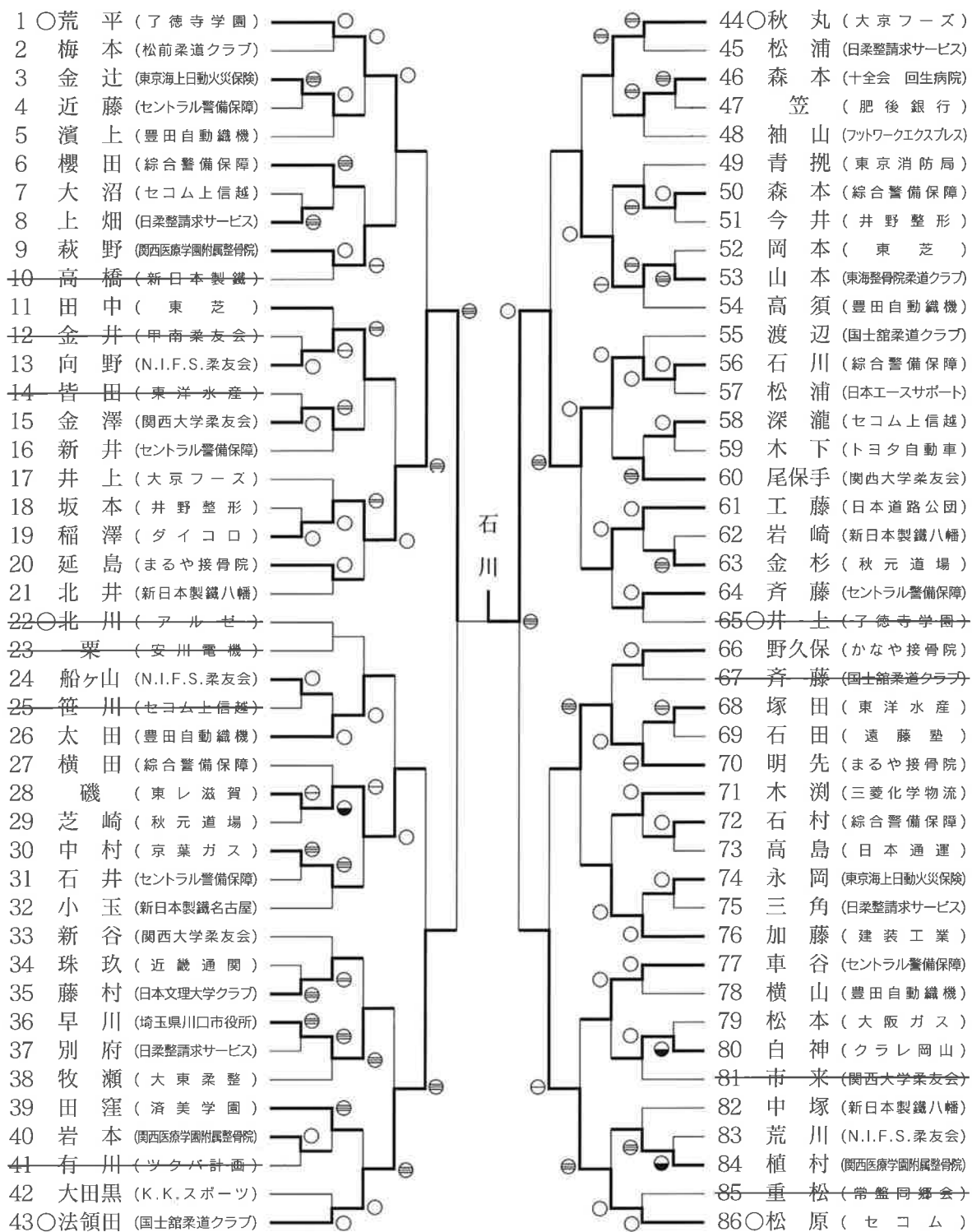
成績表

男子81kg級(93名)



成績表

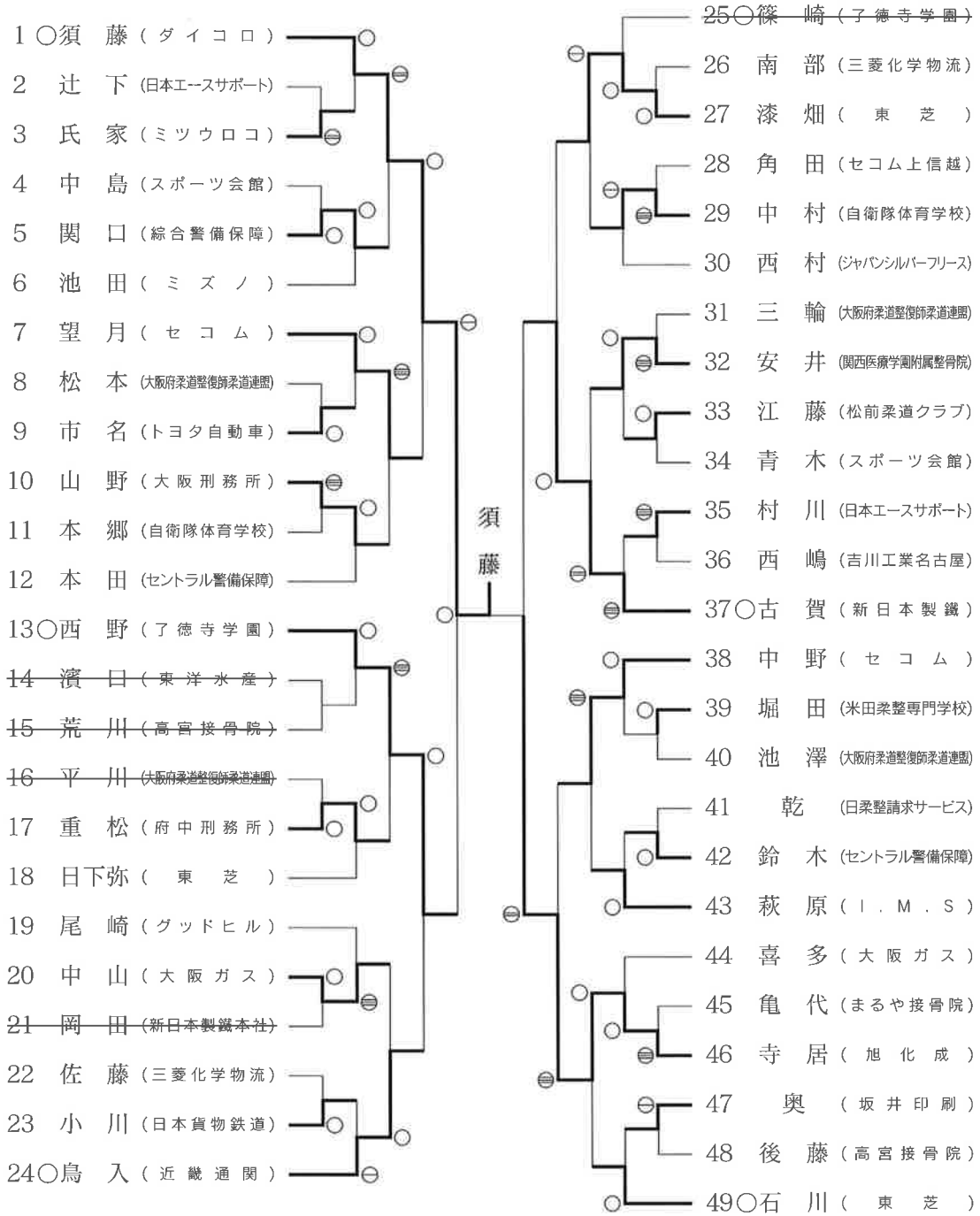
男子73kg級(86名)



○印はシード選手

組み合わせ

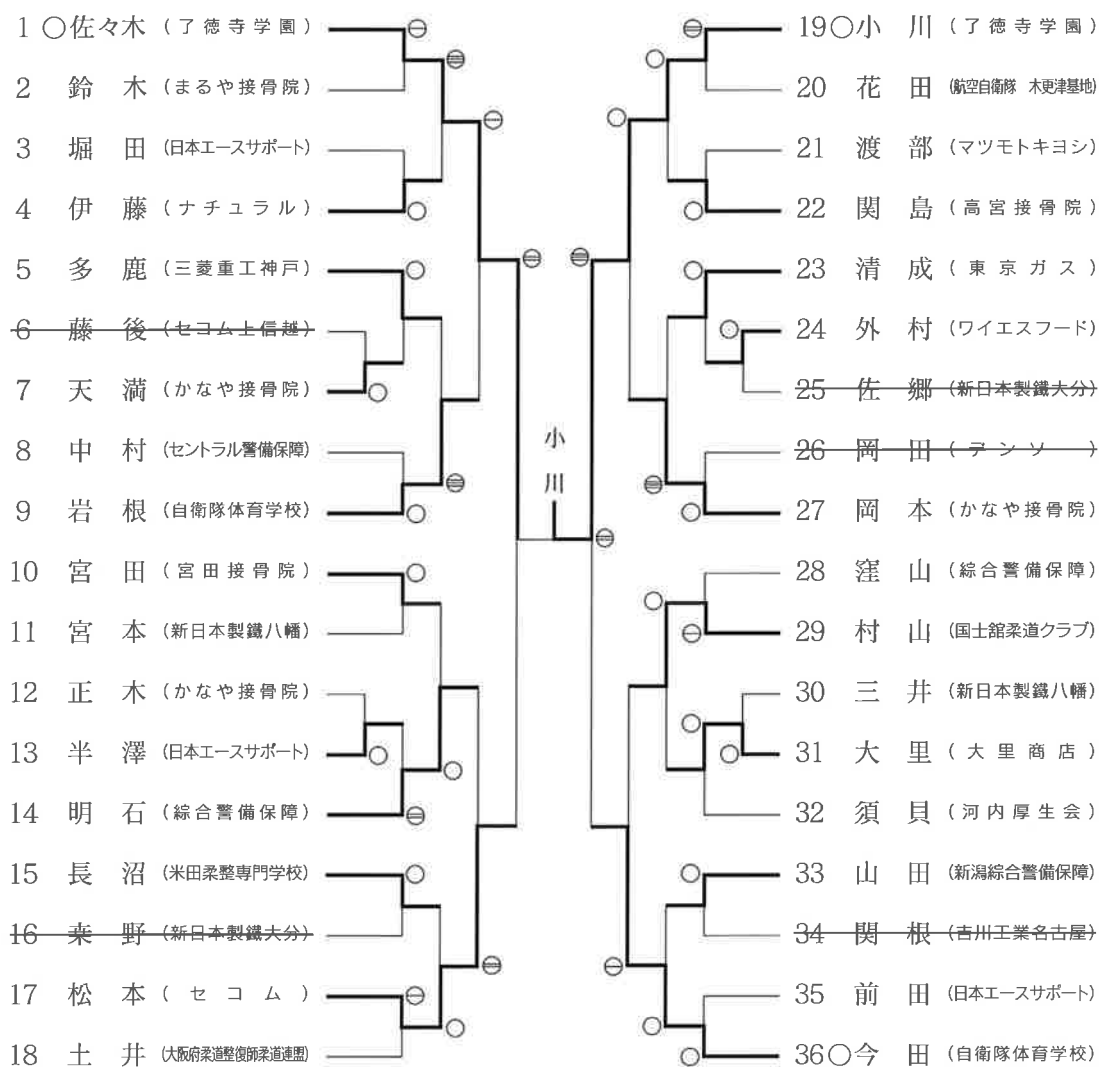
男子66kg級(49名)



○印はシード選手

成績表

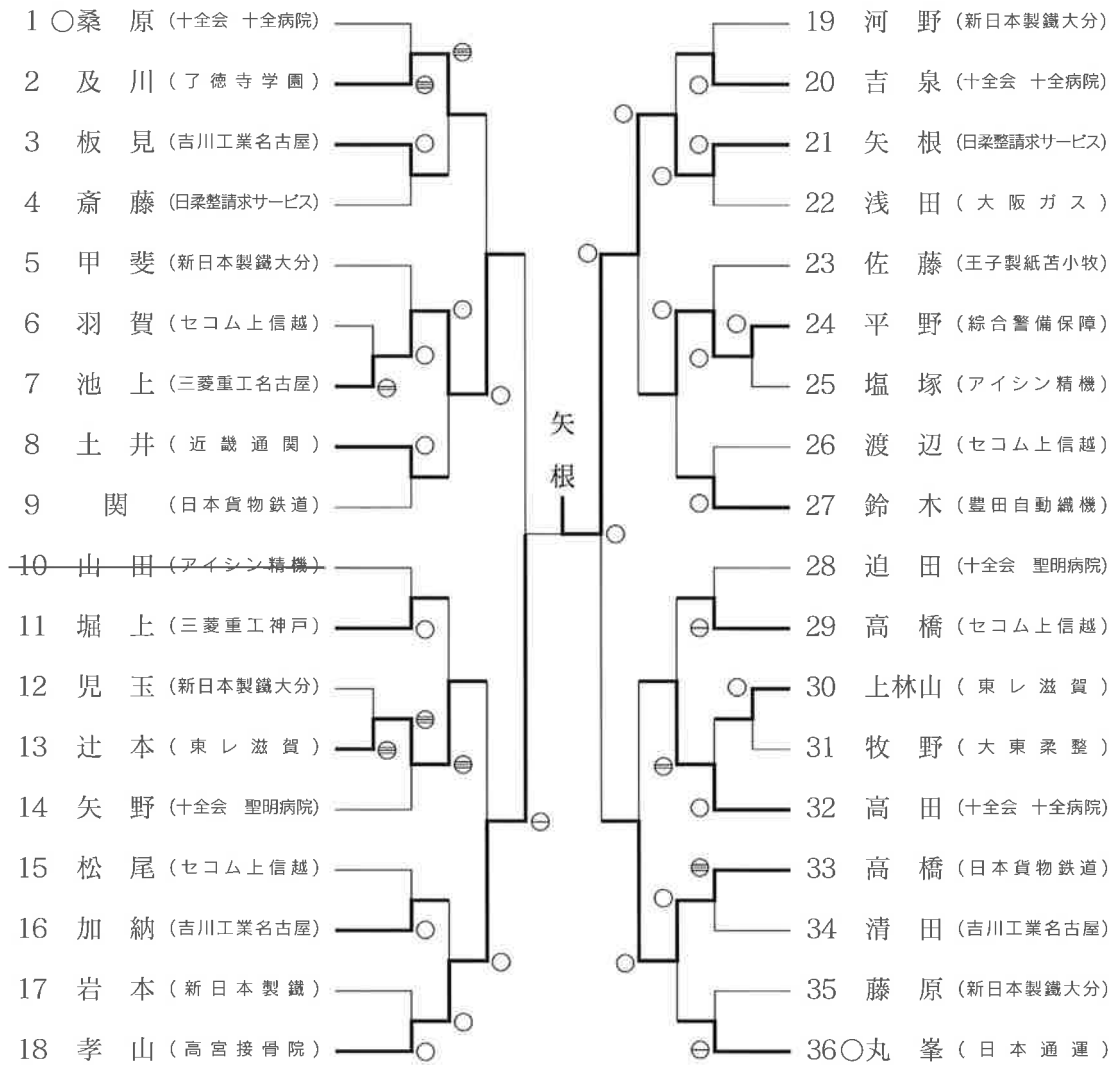
男子60kg級(36名)



○印はシード選手

成績表

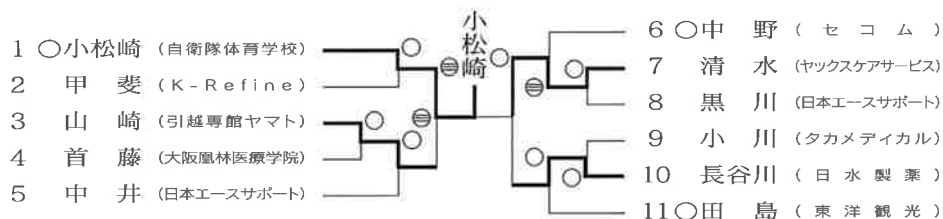
男子22歳未満(36名)



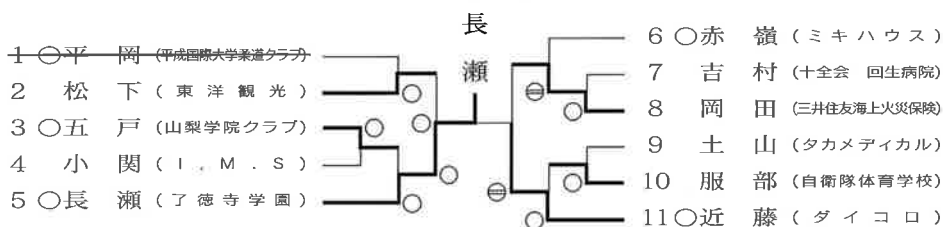
○印はシード選手

成 績 表

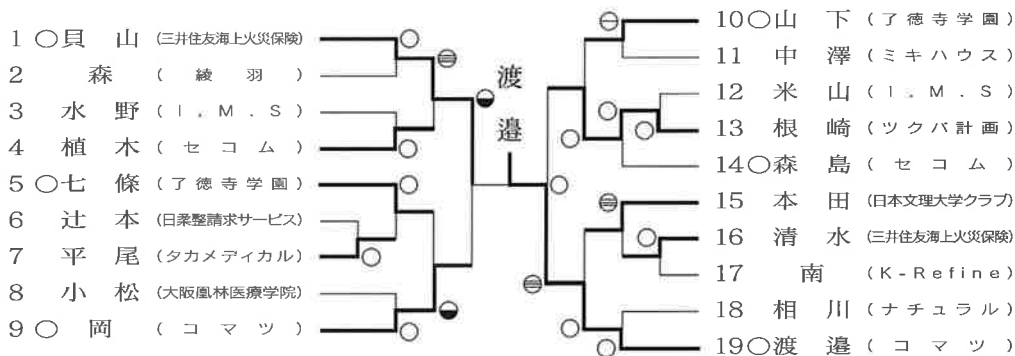
女子78kg超級(11名)



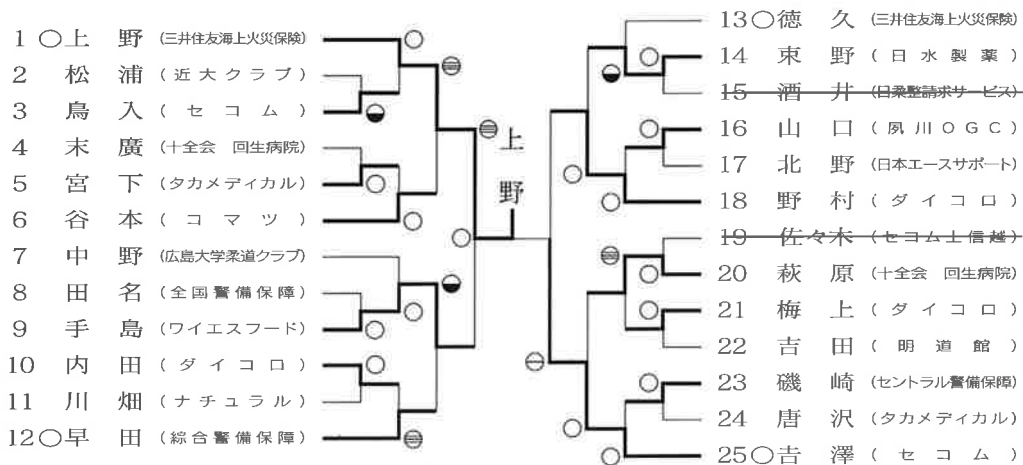
女子78kg級(11名)



女子70kg級(19名)



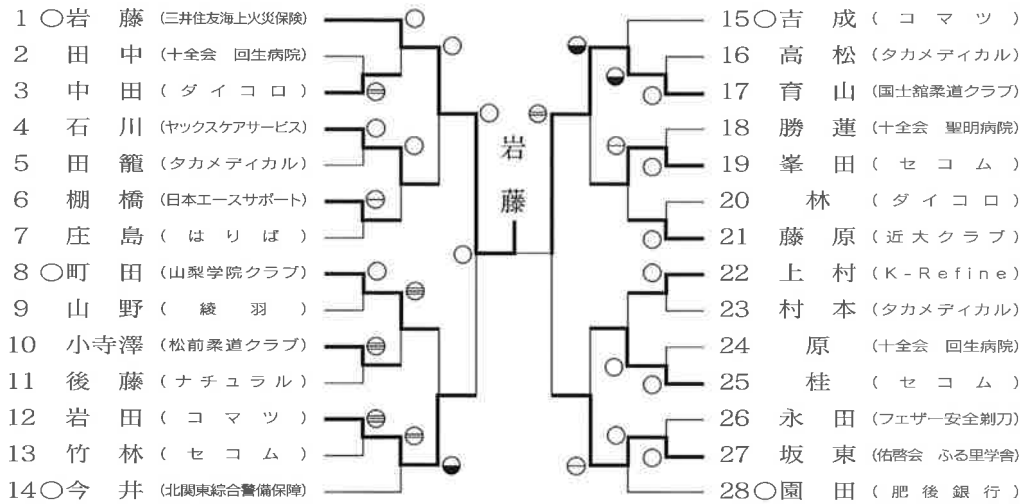
女子63kg級(25名)



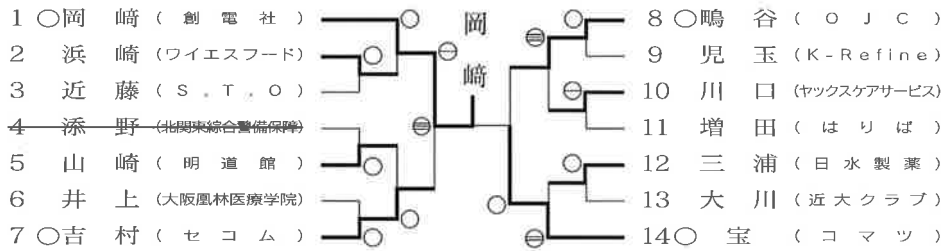
○印はシード選手

成績表

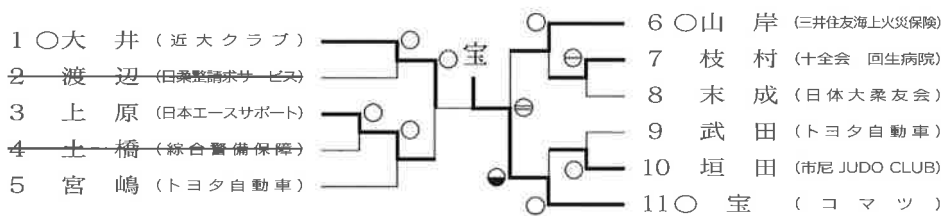
女子57kg級(28名)



女子52kg級(14名)



女子48kg級(11名)



○印はシード選手



63kg級 上野 大外刈 吉澤



60kg級 小川 優勢勝 佐々木



48kg級 宝 優勢勝 大井



66kg級 須藤 内股 寺居

熱
戦
風
景
2

第14回環太平洋柔道選手権大会結果報告
(海外派遣事業)



平成17年度 海外派遣事業として、6月22日から27日の6日間、韓国 済州島で開催された第14回環太平洋柔道選手権大会に、団長以下25名の日本選手団を派遣した。

参加国は14ヶ国、韓国、チャイニーズタイペイ、日本のフルエントリーをはじめ、イランやアメリカ等は少数精鋭で参加し、出場選手は計112名であった。日本選手団は、金メダル7個、銀メダル8個、銅メダル1個と全員がメダルを獲得し、好成績を残すことができた。

今回の代表選手全員が、貴重な国際試合を体験し、それぞれの課題を把握することができ「更に研鑽を積み、この経験を今後活かしていきたい」との感想であった。

発行日 2005年10月1日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 ジャーナリスト 宮澤正幸
 印刷 ダイコク株式会社

階級	選手名	会社名	成績
無差別	市ノ渡秀一	平成管財(株)	優勝
100kg超級	落合 幸治	新日本製鐵(株)	2位
100kg級	本郷 匡道	日本中央競馬会	2位
90kg級	高橋 徳三	新日本製鐵(株)	2位
81kg級	塘内 将彦	旭化成(株)	2位
73kg級	北川 勝広	アルゼ(株)	3位
66kg級	篠崎 悠	了徳寺学園	2位
60kg級	小川 武志	了徳寺学園	優勝
無差別	小松崎弘子	自衛隊体育学校	優勝
78kg超級	中野公洋子	セコム(株)	優勝
78kg級	長瀬めぐみ	了徳寺学園	2位
70kg級	貝山 仁美	三井住友海上火災保険(株)	優勝
63kg級	前田 桂子	ワイエスフード(株)	優勝
57kg級	吉成 麗子	コマツ	2位
52kg級	吉村 依子	セコム(株)	2位
48kg級	宝 真由美	コマツ	優勝